

# らいぶ **創** つくりえいたー LIVE REATOR

NO.24

2005. 3. 1

研究広報誌

## CONTENTS

「意味と内容」が  
ひろがる学びの創造  
まなざしの共有によって

- 子どもを変える第一歩、教師の姿「あとみよそわか」 ..... 1
- らいぶレポート これからの実践研究 ..... 2・3
- 学習紹介 「あったらいいな こんなむし」(1B図工) ..... 4
- 学習紹介 「さわって かわって」(2A図工) ..... 5
- 学習紹介 「4C和歌山城全国PR隊」(4Cみらい) ..... 6
- 学習紹介 「日本の味!お巻きずし」(5A家庭) ..... 7
- わたしの学校 HOT LINE 「きらきら輝くことばに囲まれて」 ..... 8

### 子どもを変える第一歩、 教師の姿「あとみよそわか」

和歌山大学教育学部附属小学校副校長

北島 健司



今ここで、私たちの反省と期待を込め、来年度への展望としていくつか振り返ってみたい。  
《 時間のかけどころを考えていただろうか 》

私たちは、子どもたちの真の「学びの創造」を願い日々取り組みを進めてきた。だが、まだまだ伝達型の学習に多くの時間をかけ過ぎていないだろうか。共に学ぶという学習価値が「学校における学び」だと考える。ゆえに創造型の学習を大切にしたい。創造型の学習とは、子ども同士、子どもと先生と一緒に新しい知識や技術を創り、それらを共有することであり、そこには「共生・共創の喜び」が生まれる。基礎・基本が大切な基盤となることはいままでもない。

《 子どもたちに何を学ばせなければならないのだろうか 》

子どもは、子どもなりの価値観をもつ。好きなこと、興味のあること、価値を認めることには積極的である。これは大切にしたいエネルギーである。しかし、逆を考えた場合どうか。時にはこの価値観をうち砕いてやることも必要ではないか。有用感のわき起こる学習をもって……。

また、スタディ・スキルという言葉がある。自ら進んで学習するための基礎的な技能である。話の聞き方、発表の仕方、ノートの取り方、調べ方、まとめ方などのスキルを身につけることが今後益々大切になるだろう。

《 当たり前のことを当たり前に行っているだろうか 》

何が当たり前か。上田薫先生がよく言われた言葉「奥行きのある人間理解」が、今、重みを感じる。教育の鍵は、子どもに対する人間理解の深さにある、奥行きをもって日々子どもを見取ることはしごく当たり前のことだ、という。子どもに教師の予測と違ったものを発見したときのメモ「カルテ」、日常的に心にとめておきたいことや必要なことを記録した子どもの姿「座席表」、そして、本時を含め3時間ぐらいたんが示し、変更しやすい複線をもった作戦図「全体のけしき」。これらはすべて個々の子どもを生かすための当たり前の手だてである。

学校教育の進むべき方向の見定めが難しい現在、私たちは、「今を見極める冷静さと大海にこぎ出す勇気」とを持ち、変わることなく子どもの成長を大切にしたい教育を進めていきたい。

※「あとみよそわか」は、幸田露伴が娘のしつけに使った呪文、「後を振り返りなさい」の意味。

## これからの実践研究

**「意味と内容」がひろがる学びの創造**  
— 互いのまなざしが共鳴することによって —

研究企画長 愛須 一弘



### 実践研究の柱

本年度は、「意味と内容」がひろがる学びの創造という研究主題での第1年次の取り組みである。来年度もこの方向は変わらない。

私たちは、子どもたちの学びが、興味・関心に基づいてその子なりに取り組んでいる追い求める“追求の姿”から、学習対象に価値を見出し、こだわりをもって取り組んでいるという追い求める“追究”の姿へと変容していくような学習を構築しようと日々実践研究を進めている。そこには、子ども自身が主体となって「意味と内容」をひろげていく学びがあり、その実現のために、子どもとそのまなざしを共有することからはじめた。

次年度は、さらに一歩進め、子ども同士がより響き合う学習をめざして、サブテーマを『互いのまなざしが共鳴することによって』とする方向で検討している。

人というものは、自分一人では考えたり、活動したりする範疇が限られている。子どもの場合、授業の中で、自分と異なる多様な考え方に会ったり、さまざまに取り組む行為に接したりすると、「なるほど、こんな見方もあるんだ」と自分の考えを高めるきっかけになったり、「だったら、こうしてもいいんじゃないかな」と自分の行為そのものを変容させようとしたりする。このようなそれまでの自分にはない部分が出される場には、子どもも相互の刺激があり、「意味と内容」のひろがりもみられる。また、そこでは、それぞれ固有の価値観をもってのかかわりが為され、質の高い共感や葛藤も期待できる。

仲間と学んでいるからこそ体験できたという自覚は、新たな自分を創りだしていく。そんな学びが展開されているときにこそ、私たちのこれまで以上の個々の学びのていねいなみとりが大切となる。

### 授業の質的変革

昔から教師中心型といわれ、その改善を言われ続けながらも今なお、全国の多くの教室で展開されている注入型授業。この型の授業の場合、たとえ子どもに意欲がみられなくても、教師が、その専門性をもとに教材に精通していて、なお且つ指導技術が高ければ、教師としての権威をもって子どもたちを制御し、知識を詰め込み、技能を教え込んでいくことができる。そして、中には、暗記と反射がとでも得意になる子どもが育つ場合もある。

しかし、ここで考えなければならないのは、子どもたちは本当の意味で学ぶことに喜びを感じ、そして問題解決力を身に付けているのかということである。もっと本質的な、つまり学ぶことの価値にもふれてもらいたい。子ども自身が主体的に動かない教師主導の注入型の授業でその実現は難しい。

総合的な学習とともに登場したといっても過言ではないのが、放任型の授業である。いわゆる子ども任せ子ども預けの授業で、教師のコントロールがほとんどないものである。

## らいぶ★レポート

さらに、教師に子どもを変えていこうとする気力も意欲も乏しい場合、無節操かつ無軌道のなりゆき任せの授業となる。たしかに、なかには、自分が好きで得意であることを伸ばす、つまり部分探求ができる子どもが育つ場合もある。しかし、自分の好きなこと、興味のもてる対象であれば、意欲的に取り組み、自分の感性に合わないもの、理解できないもの、意のままにならないものなどは、簡単になげすててしまうような学習の構えは、決して知的自立に向かうものではない。

そして今、“脱ゆとり”という揺り返しによって、時代は、「学力低下」などの声に応えようと必死である。その結果が、注入型授業にもどっての詰め込みであるなら、これほど浅はかなことはない。

よく考えよう。注入型の授業に足りなかったものは何か。それは、子どもの側にたって一人一人に対するねがいをもつての単元構成をしていなかったことである。では、放任型の授業に足りなかったものは何か。それは、何を・どこで・どのように、考えさせたり、活動させたり、また教えたりということを明確にしたうえでのねらいをきちんと設定して単元構成ができていなかったということである。つまり、私たちの授業は、その学習をとおしてこうなってほしいという期待目標と、具体的にどういうことをきちんとした形で身に付けていけるようにするといった到達目標とをしっかりと行われなければならないのである。それこそが、教師である私たちの主体性といってよい。

もちろん、私たちは、単に授業のあるべき姿を形式的にいつているのではない。どうすればその中で、子どもたちが成長していけるのかを具体的に考えている。よって、研究主題を支える学級・学校の風土、つまり学習文化を大切に、「意味と内容」がひろがる学びの創造をめざしている。

### 互いのまなざしが共鳴できる学習文化

学習文化で核となるものは、子どもたちが学習に挑む姿勢や雰囲気であることはいうまでもない。仲間は、その子が「意味と内容」をひろげていく後押しをする。集団での学習では、一人一人の考えが出されてこそ、それぞれの子どもの“その子らしさ”とか“意外性”を相互発見するきっかけができる。つまり、「そういう見方もあるのか」、「そういう仕方もあるのか」など、さまざまな考えを提供してくれた仲間の人となりに拍手をおくりながらの相互発見が期待できる。それは取りも直さず、その提供者が「わたしもこんな意見が言えたんだ」という自分自身の発見になっていくことにもなってる。

このように、個々の学びを支えているのは、共に学ぶ仲間である。共に学ぶ仲間は何らかの作用をしあっている。学級が互いに認め合い、励まし合う集団である場合、受容したその子に満足感を与える。賛同や感動を得ると、一層の努力をし、さらに意欲をもって取り組むようになる。みんなのために貢献できたという自信、かかわり合いみがき合う集団の一員としての自覚が、学級のよい循環を生み、学級そのものを創造的集団にしていく。そして異なる視点をもっている仲間の考えや発想によって、その子の学ぶ対象の「意味と内容」がひろがる。つまり、互いのまなざしを共有すると、互いの成長への動きが共鳴する。その一連の相互信頼にもとづく作用を『互いのまなざしが共鳴することによって』と表現し、研究主題のサブテーマとしたい。

## 図画工作科 あったらしいな こんなむし

1 B 担任 北山成美



1 Bの子どもたちは、とても活発で虫が好きな子もたくさんいる。男の子だけでなく、女の子も休憩時間になるとよく出かけて行って、バッタやコガネムシなどいろんな虫をつかまえてくる。図書の時間には虫の図鑑をよく見ている子もいて、虫のことにはかなり詳しい子もいる。ヘラクレスオオカブトとか外国の虫にもあこがれている子も多い。夏休みの作品でも、紙粘土などで虫をつくっている子が何人かいた。

虫の好きな子は、虫のどこに魅力を感じているか考え、強そうに、かっこよくどんどん変身させていこう。また、虫が苦手な子は、虫のどんなところが嫌いなのか考えて、こんな虫だったら好きと思えるような虫をイメージしてつくっていく。かわいい虫や、やさしい虫、きれいな虫もできていこうと考え、この学習に取り組んだ。

ペットボトルやポンプ式の容器、ガチャポンの空き容器などを中心の素材とし、容器の形からどんな虫にしようかイメージをひろげたり、容器の中に何かを入れて、虫の鳴き声や体の模様や色を工夫して、自分のお気に入りの虫や「こんなむしがあったらいいな、楽しいな」と思う虫をつくった。

虫には、くわがたむし、かぶとむし、こおろぎ、ちょうちょ、かたつむり、てんとうむしに見立てたり、キンピカ虫、ニジイロカブト、ぶんぶんばち、25せいきのでんせつのむし「あっちゃむむし」、ロボットくわがたなど自分で考えた虫をつくっている子もいた。

子どもたちは、いろいろとイメージを膨らませ、家からさまざまな材料を持ってきて、夢中で虫作りに取り組んだ。ボタンを目玉にしたり、モールや毛糸を触覚にしたり、ストローやモール、リボンを足にしたり、おはしで角を作っていた。体の部分は、油性マジックで色を塗ったり、折り紙を張って色をつけたり、細い針金を口にしたり、羽は、折り紙や空き箱の紙を使ったり、ビーズを使うなど子どもたちは工夫しながら楽しく作れた。

最初に簡単な設計図を描いて、みんなに紹介したが、友達のいいところを認めることができ、自分の参考にもすることができたのがよかった。出来上がった虫は、みんなの前で紹介して、工夫したところ、自慢したいところなどを発表して、友達に認めてもらったのが自信にもなってよかった。

教室の後に飾っていたが、休憩時間には、作った虫で遊ぶ子もいた。

**2A**  
図工科

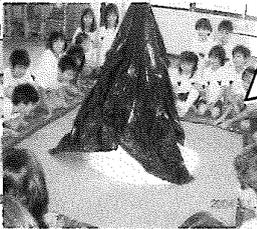
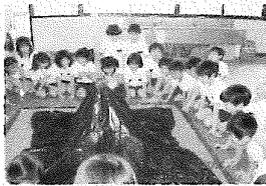
## 「さわって かわって」 ～こむぎこへんしんものがたり～

**2A担任**  
竹中恵美子



2Aの図工科での学習の年間テーマは、“自分らしい見方・感じ方をみつける”こと。  
この題材では、身近材料に目を向けて**小麦粉**を素材にしました。そして、直接的、身体的な感覚である、「さわる」ことを軸にした学習に取り組みました。

### ドキドキ☆ワクワク

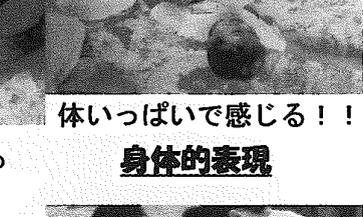


おおっっ！！  
でてきたよ！

目の前に出てきた100kgの小麦粉の山！さて、どんな表現活動がくりひろげられる??

### 小麦粉との出会い

♪ふわふわベッド♪



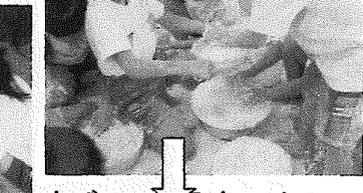
体いっぱいを感じる！！

### 身体的表現

さらさらで気持ちいい～

足でぎゅっぎゅ

### のばしてのばして…

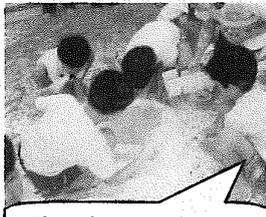


### こねてこねて…

ふるってふるって…

まぜて…色をつけて…

### 色水を流し込んだり…



### 造形的表現

固まった小麦粉をふるって…

元通りに！！

池になったよー！

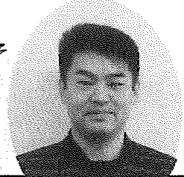


わあ！どんどんへんしんするねー！！

この題材を通して、素材である「小麦粉」に対する新しい見方や感じ方をひろげたり、今までもっていた見方・感じ方をつくりかえたりしている子どもたちの姿があふれていました。また、感覚をはたらかせ、体いっぱいを感じ、表現することの楽しさや心地よさを味わいながら活動していました。豊かで生き生きとした表現やダイナミックでのびのびとした表現が展開され、子どもたちそれぞれの～こむぎこへんしんものがたり～ができあがりました。

みらい  
の学習

# 4C和歌山城全国PR隊



4C担任 中井 章博

いつも何気なく眺めている和歌山城。でも、「街の中心地なのに、どうしてこんなに緑が多いの？静かなの？空気がきれいなの？」「和歌山城の歴史って…」「大勢の人が散歩をしたり、楽しんでいるね。」と見つめなおした子どもたち。こうして、子どもたちが見つけた和歌山城のふしぎ すてき 自慢などをたくさんの人々に伝え、広める「4C和歌山城全国PR隊」の活動が始まりました。

和歌山城について自分の思いを持ち、課題を見つけ、解決するための活動（情報収集・情報選択・資料作成・発信など）を通して、粘り強く問題追究していく子どもを育てたいと思います。



和歌山城天守閣

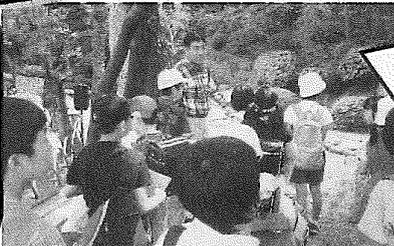
和歌山城ってすてき。こんな和歌山城にもっと親しもう。もっと知ろう。もっと触れよう。そして、もっともっとたくさんの人に知ってもらおう！  
和歌山城について、①天守閣、②歴史、③自然、④和歌山城公園の4つのグループに分かれての調べ学習から始めました。情報発信の方法は、まずはテレビ放送を利用して行うことにきまり、活動を進めました。



二の丸広場でのお弁当



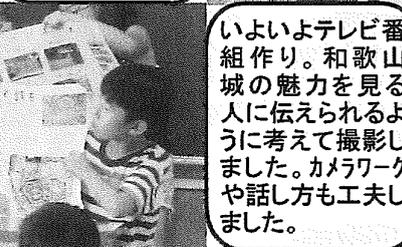
まずは、自分たちで和歌山城のことをもっと調べました。気付かなかったすばらしい自然、ひみつなどもだんだんとわかってきました。



観光協会の松浦さんに、もっと詳しく教わりました。緑石のこと、石垣の積み方・刻まれている刻印のこと、とても勉強になりました。



調べたこと、教えてもらったことをポスター形式にまとめました。休日に調べに行ったりもしたので、みんなとっても詳しくなりました。



いよいよテレビ番組作り。和歌山城の魅力を見る人に伝えられるように考えて撮影しました。カメラワークや話し方も工夫しました。



PR番組をもってNHK放送体験クラブへ！本当のスタジオでテレビ番組作りを行いました。1月12日に近畿圏内で放送されました。



和大的豊田先生に編集の仕方等を教わりました。今まで気付かなかったテレビのひみつにも気付きました。いよいよできてきました。



作成したPR番組は、NHK放送体験クラブに参加するというかたちで近畿圏内へ発信しましたが、子どもたちの目標は「全国へのPR」です。当初の話し合いでは、「ホームページを作って発信しよう！」という声も大きく、Web発信していこうという気持ちが高まっています。子どもたち自身で課題を見つけ、さらに活動がひろがれば、と考えています。そして、自分たちのPR活動に対して、リアクションがもらえるようにしていければと考えています。

次のステップへ

日本の味！お巻きずし

～お米を使った調理の学習より～



【家庭科】

5年A組

担任 藤原 ゆうこ

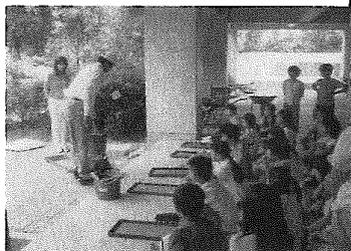
5年生では、社会科で「米作り」を通して日本の農業について学習します。“食生活の欧米化が進み、米の消費は減る一方…”とも言われますが、お米は日本食になくてはならないもの。「お米」のことをもっとよく知り、おいしくいただきたい！5Aの子どもたちからは、「白いごはん大好き！」という声をよく耳にします。

今回は、自分たちが「米作り」体験をさせてもらい、実際に収穫したお米を使って挑戦した、日本料理の代表の一つともいえる『巻きずし』作りを紹介させていただきます。

◇米作り～体験を通してお米を身近に感じながら学習をすすめました～

〔5月〕 種もみまき

松江さんに教えてもらって…



木野さん家の田んぼを借りて…

〔6月〕 田植え



〔10月〕 稲刈り



収穫！！

◇巻きずし作り～奥さん・裕田さん・奥園さん、3人のゲストティーチャーがきてくれました～

☆具材の準備…卵焼き、うなぎ、かんぴょう、お肉のそぼろ等々…

巻きずしらしくて、みんながおいしく食べられる具材を班ごとに相談。

☆炊飯準備…おいしいごはんをたくために、時間をかけていねいに！

カクカク…



合わせ酢をごはんに…。飯粒をつぶさないようにまぜなくっちゃ。



ごはんの入れすぎに注意して…巻きずすをうまく使えるかな？



巻けた～！

☆36種類のバラエティーに富んだ巻

きずしができました。予想以上のできに大満足！「もう1本巻きたい～！」

という子どもたちの声。お家へ持ち帰って家族のみんなにも食べてもらいました。

具材がきっちり真ん中にあるよ！

今日の調理実習で、巻きずしを作りました。ゴトウへ買い物に行ったり準備をしました。さあ、いよいよ本番の5・6限の始まりだ。巻きずしの先生達がきてくれていて、巻き方を教えてもらいました。栄養士の神山さんもきてくれました。自分がやろうとすると、わからなくなったので、もう一度教えてもらったらよくわかって、上手にできました。けっこうおいしくて、家でお母さんとお姉ちゃんにもほめてもらいました。

…巻きずしを巻く時、最初とまどったけど、先生が教えてくれて1本できました。人参・ごぼう・みつば・卵をいれました。けっこう難しいなと思ったけど、2本目は1本目より簡単にできました。具を決めたり入れるのに悩んだけどそれも楽しかった。いい体験ができたと思います。

日々の生活を振り返りながら、よりよい生活を考える家庭科学習めざして、今後も楽しく学習をすすめていきたいと思います！

## きらきら輝くことばに囲まれて♪

梅本 優子



4年B組の教室には、きらきら輝くことばがあふれています。学習の場で、生活・遊びの場で。何気なく聞き逃してしまいそうなことばのなかに、「真実をついていることば」や「その後の学習の展開の道すじが隠れていることば」、「学級の学び・財産となることば」が、たくさんあります。わたしは、そのようなことばを付箋に書いて溜めておいたり、ノートの端っこに書き溜めておいたりしています。（時々どこかに失くしてしまうのですが……）算数科の『分数』の学習のなかからいくつかを紹介します。

“おっしゃる通り！” 編

みなさんは円柱形の箱に入っているポテトチップスをご存知ですか？標準サイズの他に、Sサイズの箱があります。このSサイズは、標準サイズの $\frac{5}{8}$ なのです。「分数の学習にいただき！」ということで、ポテトチップスのパッケージサイズを中心課題として、分数の学習を進めていきました。

子どもたちにSサイズチップスを提示したところ、早速、「先生、その他のサイズはないの？」、「うん、見たことないね」「もっといろんなサイズがあったらおもしろいのに」「めっちゃ大きいのか、小さいのか」

なかったら、作ったらいいやん！ ⇒おっしゃる通り！

仮分数と帯分数、真分数の学習の時間。 $\frac{1}{5}$ を7つ集めるといくつになるかな？の問題で、悩んでいるAくん。黒板に、1ℓマスの図をかき、5等分し、 $\frac{1}{5}$ ずつ色を塗りながら、「 $\frac{1}{5}$ が5つ集まったら、もういっぱいになってしまっただけは入らないから、どうしたらいい？まだ2つ分残ってるけど……」

たらなかったら、もう1つ1ℓマス持ってくればいいよ！！ ⇒おっしゃる通り！

“なんて前向き！” 編

算数の学習時だけでなく、普段から子どもたちは、分からないことや不思議に思うことを素直に自分のことばで表現します。そして、友だちに“SOS”を送ります。

基準量1に対して $\frac{11}{8}$ サイズのパッケージの大きさを考える学習で、 $\frac{11}{8}$ サイズを“1”にとらえ、思考の迷路に入り込み、悩んでいたBさんとCくん。悩みながらも、挙手してみんなに問いかけます。

等分したら、まぐれで“何分の何”ってできたけど、これ絶対間違ってると思う、どうかな？

1より大きいはずなのに、なぜか全部“1”になってしまう……どうしてかみんな考えて！

Bさん、Cくんの気持ち分かる！

どこで勘違いしているか分かる！

勇気ある2人の問題提起のおかげで、基準量1のとらえが共通理解できていなかったことが判明！

学習や生活・遊びのなかで、子どもたちは興味をひかれる対象に出会います。そのとき、一人ひとりの子どもが持つイメージは様々です。そして、子どもたちはイメージのままに“ことば”で表現します。上記のように、合理的でなかったり、算数的でなかったり（算数の学習時に於いて）することばもあります。でも、一つひとつのことばには、子どもの思いや思考、ひととなりやが滲み出ていて、きらきら輝いています。このような素敵なことばに囲まれて、日々子どもたちと過ごしています。（もちろん、素敵でないことばもちらほら……）みなさんの周りにも、きらきら輝くことばがたくさんあるのでしょうか。きっと……。

## From Editors

LIVE創REATORも創刊以来4年（24号）が過ぎました。ご覧になった方々からの励ましやご意見のおかげで今まで続けてこれたものと感謝しております。

ご意見・ご感想を右記宛にお寄せ下されば幸いです。

今後とも御指導よろしくお願い致します。

和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137 和歌山市吹上1丁目4番1号

TEL (073) 422-6105 FAX (073) 436-6470

URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>E-mail [fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp)